麻生学園小学校

校長室だより

NO．２６　発行：校長　R８．１１／１６(月)

お　願　い

○「赤い羽根共同募金」へのご協力のお願い



「赤い羽根共同募金」は地域の福祉活動を支えるための募金です。本校でも毎年児童運営委員の子ども達が中心となって、子ども達の登校時に募金活動を実施しています。お小遣い等からわずかな額で結構ですので、募金へのご協力を子ども達に促していただければと思います。よろしくお願いいたします。募金活動は２０日（金）まで実施しています。

感じたことから

○「ありがとう」は魔法の言葉！



１３日（金）に芸術鑑賞会を行いました。今年は、「ミュージックオフィス　SAKAKI」の方々に来ていただき、たくさんの曲を素敵な演奏と歌声で聴かせてくださいました。その公演の中で、歌のお姉さんが、映画「メリーポピンズ」（1964）で、人生を向上させる魔法の言葉として歌われていた「スーパーカリフラジリスティックエクスピアリドーシャス」を披露してくださいました。歌のお姉さんは、歌の前振りとして子ども達に「魔法の言葉があるって知ってる？」と聞きました。みんなが首をひねっている中、１年生のＦさんは「知ってるよ！」と言いました。お姉さんは「知ってるの？それって、何？」と聞くと、Ｆさんは「『ありがとう！』だよ」と答えたのです。この回答には、驚かされるとともに、拍手を送りたい気持ちでいっぱいになりました！

さて、この「ありがとう」の言葉については、以前、「校長室だより NO １４（７／１４）」で、次のような文を書かせていただきました。繰り返しになりますが、もう一度述べさせてください（少し文を変えています）。

> 感謝を表すこの「ありがとう」ですが、言葉心ここにあらずではただの「表音」の一つとしか感じられません。しかし、心を込めた「ありがとう」には、言われた方も思わず謙虚さを引き出され、「こちらこそありがとう」と言いたくなります。まさしく「魔法の言葉」です。
>
> ただ、この「ありがとう」の言葉は、両者の距離感が開いている場合に、交わされていることが多いように感じます。例えば、今回の歌や演奏を披露してくださった方々に対しては、素直にこの魔法の言葉が出てきます。
>
> しかし、仲が良い友達の間では、お互いの心遣いが当たり前のようになり、「ありがとう」の言葉が出にくくなっているようです。まして、ずっと側で支えてくださっている保護者の皆様の何百、何千、何万以上もの深い愛情は子どもたちにとって全て当たり前と勘違いし、「ありがとう」の気持ちを伝えることを忘れてしまっているのではないでしょうか。本来は、こうした、より身近な関係の中にこそ、たくさんの有り難い思いと姿は隠れているように思います。
>
> 子どもたちには、ときに、お家の方の一つ一つのかかわりの裏にある愛情を振り返って「ありがとう」の気持ちを心を込めて伝えてみるのもいいのかなぁ、と思います。（少し恥ずかしいでしょうけれど･･･）。そして、保護者の皆様にとっては当たり前のようにいつも側にいる可愛らしく、また逞しくなったお子様の存在自体への「ありがとう」の気持ちを何気なく子どもたちに伝えてみるのもいいのかなぁ、と思います。（子ども以上に照れくさいでしょうけれど･･･）。

ちなみに、こども家庭庁が定める「家族の日」が昨日の11月15日、「家族の週間」が11月8日～21日です。そして、「勤労をたっとび、たがいに感謝しあう」勤労感謝の日が11月23日です。魔法の言葉がご家庭でも飛び交い、ご家族の絆が深まるといいですね。